

平成29年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	将来の日本や国際社会でリーダーとして活躍できる高い資質、能力をもった人材を育成する教育課程編成、及び学習指導に学校全体で取り組む。	① 確かな学力を土台として発展的で高度な内容の授業実践を組織として充実させる。 ② 新しい大学入試制度を視野に入れつつ本校にふさわしい新カリキュラムの検討を始める。	① 教科の枠を越えた授業互見の雰囲気醸成及び湘南高校での授業実践に関する各教科での研修の実施。 ① 進学重点型AL視点授業の研究の推進。 ② 新しい大学入試制度の情報収集。	① 授業研究発表会において、発表者個人の研究ではなく事前に教科として研究授業の内容を把握しアドバイスをできたか。 ①校内職員対象進学重点型AL視点授業研究説明会に参加できたか。 ② 新しい大学入試制度の情報を職員に提供できたか。	① 授業研究発表会や年次研修の研究授業において、事前に教科でアドバイスをを行い、研究授業を充実させた。 ① 毎週、職員室の定位置に見学可能な授業を掲示し、気軽に参観できるよう工夫した。 ② 新しい大学入試制度への対応を検討した。対応の一環として、来年度から、高校1、2年生で高大接続改革に対応した模擬試験を新たに導入する予定である。	① 見学可能な授業をさらに増やし、さらなる研究授業の充実や授業改善に対する職員相互の意識の向上を図る。 ② 種々の模擬試験の特徴を比較検討し、本校にふさわしい模擬試験を選定する。	①「学校へ行こう週間」や公開授業で授業を見たところ、生徒たちが能力を発揮するすばらしい授業であった。 ②高大接続の新制度への対応を今後も考えていってもらいたい。	①思考力や表現力を高める授業展開の工夫がみられた。 ②授業研究ワーキンググループが伝達講習を行うなど積極的に活動した。今後はさらに他県の授業研究に参加し、成果を持ち帰る必要がある。	①今後も引き続き授業互見を行い、職員で授業実践を共有する仕組みを考える。 ②授業研究ワーキンググループが中心となり、学力向上進学重点校である本校の生徒にふさわしい深い学びの授業実践を発信し、職員全体で共有する。
2 生徒指導・支援	① 次世代リーダーとして、望ましい社会性、高い規範意識、心豊かで他者を思いやる人間性を育成する。 ② 組織的で丁寧な個別の支援体制を確立する。	①部活動等を通し、次世代リーダーとして社会貢献活動やボランティア活動の一層の推進を図る。 ②支援教育の視点を全職員が共有し、個別の支援のためにケース会議の充実を図り、課題の解決にあたる。	①部活動等が自主的にできる範囲の社会貢献活動やボランティア活動を提示する。 ②管理職、担任、教育相談コーディネータとスクールカウンセラーが連携し、個別の支援のために相談機関等を活用してケース会議で支援方針を立て個別支援シートに蓄積していく。	①部活動等を通じた社会貢献活動やボランティア活動が昨年の3部活から増加したか。 ②ケース会議での取り組みが支援の必要な生徒の指導に生かせ、課題解決につながったか。	① 今年度の降雪に対し、5部活以上の部活動の生徒たちが近隣の雪かきを自主的に行った。 ②必要に応じた、コア会議・ケース会議を開き、支援が必要となった生徒の情報を交換するとともに、対策を講じ、複数の生徒の課題の解決につながった。	① 今後も引き続き、ボランティア精神の涵養に努める。 ②支援を必要とする新入生に対する支援チームを結成し、個別支援シートで内容を蓄積し、課題解決を目指す。日々の学校生活で余裕を失った生徒への個別支援を充実させた。	①今後も部活動をはじめ地域との連携や協力をお願いしたい。 ② 今後も引き続き丁寧な指導を継続してほしい。	① 部活動が中心となりボランティア活動を行い、社会に貢献することの意義や喜びを経験することができた。さらに多くの部活動の社会貢献活動への参加を呼びかける工夫が必要である。 ② 支援を必要とする新入生に対する支援チームを結成し、スムーズに受け入れることができた。日々の学校生活で余裕を失った生徒への個別支援をさらに充実させる必要がある。	① 各部活動の社会貢献実践のホームページ掲載や集会での生徒への講話などを通して、生徒のボランティア意識や社会参画への意識をさらに高めていく。 ①学習、部活動、行事の並立を通して人格形成をはかる湘南高校の教育方針を内外に発信し続ける。 ② 担任、学年、養護教諭、スクールカウンセラー、管理職が生徒の様子を把握し、早めのケース会議で支援策を立て、支援データを蓄積し、外部連携も視野に入れ、チームとして生徒、保護者を支援する。

3	進路指導・支援	一人ひとりが将来を見据え、主体的に進路実現できる生徒を三年間を通して育成する。	<p>①公立高校のフラッグシップであることを認識し、生徒が希望する難関大学進学を実現するため、最後まであきらめないよう粘り強く丁寧な指導を行う。</p> <p>②公立高校を牽引する役割としてふさわしい進路実績のさらなる向上を図る。</p>	<p>① ②学力向上へ向け、進路希望や成績データを担任、教科担当者、部活動顧問などが共有できる組織づくりを進め、入学から卒業までを見通した進路指導体制を確立していく。</p>	<p>①模試の活用等により、学力の定点観測を行えたか。</p> <p>①生徒の進路希望や実力テストの情報を共有できたか。</p> <p>①集会指導や講演会、説明会を通して本人、保護者へ複数回の丁寧な情報発信を行ったか。</p> <p>②職員の授業研究会や入試問題研究会等への参加者が、昨年の20名から増加したか。</p>	<p>①模試データの活用により、学力の定点観測を行えた。</p> <p>①学年ごとに生徒の進路希望や実力テストの結果など情報の共有ができた。</p> <p>①保護者へ丁寧な情報発信を行った。</p> <p>②職員の授業研究会や入試問題研究会への参加者が27名になり、増加した。</p>	<p>①因果・相関に着目し、学力の定点観測に努める。</p> <p>②大学入試が高大接続改革により変革期にあたるので、情報を精査し、職員間で一層共有に努める。</p> <p>②大学入試の変革について、保護者に向けてさらに丁寧に発信していく。</p>	<p>①湘南の特色検査の問題は全教科にわたる問題で非常に良い。</p> <p>② 今後もこれまでのような指導を継続してもらいたい。</p>	<p>①職員の外部研究会への参加は件数が増加しており、進路支援に向けた意識を共有できている。今後もさらに意識の共有を図る。</p> <p>②今後も積極的に情報収集を行い職員で情報を共有していく。</p>	<p>①生徒自身の向上心を引き出す指導を今後も続けていく。安易に指定校推薦は勧めず、高い希望の進路実現を目指す指導を継続する。ただし生徒保護者の意識向上とともに生徒の学力と思考力判断力表現力を鍛える教員の授業実践が必須である。</p> <p>②授業研究ワーキンググループによる継続的な東大入試問題を用いた「教科指導研修会」への参加教員を増やし、教科内での不断の授業研究につなげる。</p>
4	地域等との協働	地域との協働、連携による開かれた学校づくりを推進する。	①ホームページや学校説明会等の広報活動の内容をさらに充実させ、開かれた学校づくりを一層進める。	①閲覧者のニーズを踏まえた情報を速やかに提供できるようにHPを充実改善していく。	①学校説明会、体育祭、文化祭の公開、小学生フェスティバルにおいて、効果的な広報活動が進められたか。	①学校説明会でのアンケートは好評であった。 <p>①地域からの生徒の情報に対して、素早く反応し生徒指導に活かした。</p>	①地域からの声に「いっそう耳を傾け、規範意識の向上につなげていく。	①小学生フェスティバルという取組みは学校側の意欲を感じ、大変興味深い。 <p>①小学校、中学校とも連携し、交通安全指導については引き続き継続してほしい。</p>	①今後も内容を吟味しながら継続していく。 <p>①今後も地域と協力して安全安心を守る。</p>	①ホームページを適時更新し、本校への理解を深める。 <p>①交通安全に関しては、小学校、中学校と積極的に情報交換をしていく。</p>
5	学校管理 学校運営	社会から信頼される学校づくりを推進し、事故、不祥事の防止を徹底する。	<p>①事故、不祥事防止について不断の意識徹底を図り、根絶に努めるとともに、保護者、県民への丁寧な対応に努める。</p> <p>②生徒の命と健康にかかわる安全、安心に対する意識の向上を図り防災対策の充実に努める。</p>	<p>①日常業務で注意意識が薄れぬよう、定期的な事故不祥事防止会議を実施する。</p> <p>②緊急時における人員掌握体制及び保護者への連絡体制を整備する。</p>	<p>①不祥事防止会議を適正に実施し、不祥事を0件にすることができたか。</p> <p>②緊急時における人員掌握及び保護者への連絡体制を整えたか。</p>	<p>①不祥事防止会議を実施し、現時点で不祥事はゼロ件である。</p> <p>②4月の帰宅班編成、8月の避難訓練を通して緊急時における人員掌握体制を確認した。</p> <p>②緊急メールの送信を実施し、生徒及び保護者への連絡方法を確認した。</p> <p>②3月上旬には環境整備委員に対し図上研修を実施し、防災意識の向上を図った。</p>	<p>①今後も不祥事防止意識の啓発により、不祥事の防止に努める。</p> <p>②緊急時における支援を必要とする生徒の安全対策及び帰宅困難生徒の学校待機具体策を整備する。</p>	② 防災活動に関して、災害図上訓練の一つであるDIGの取入れや地域との関わりはとてもよい。 <p>②地域では、防災は中学生や高校生に期待する面も多い。</p>	①事故、不祥事防止会議は具体的な指摘をもって粘り強く行う。 <p>②防災面では避難訓練に事例に即した内容を取り入れていく。</p>	①日常業務の中で注意意識が薄れないように時機を捉え、具体的な事故防止策を示し適切な注意喚起を行う。 <p>②地震や津波、火災などで、それぞれの注意点を明確にした事前学習を行う。</p>